近代日本の戦争と軍隊

銃後の日露戦争
日清・日露戦争と脚気
日本の上海租界占領と華人食米問題
ララ物資のはなし

塩崎文雄
内田正夫
山村睦夫
奥 須磨子

2003年4月から、本学の共通教養科目のひとつとして、「近代日本の戦争と軍隊」なる複数教員による講義を立ち上げた。もとは退任された原田勝正先生が担当されていた科目だったが、おりからの9.11やイラク戦争の問題もあって、担当教員の不在を理由に、そのままカリキュラムから立ち消えさせてしまうのが惜しまれたからである。そうは言っても、この課題はひとりで取り組むには荷が勝ちすぎる。複数講義にした消極的理由である。

21世紀のはじめにあたって、これまたまざれもなく人間の愚行でしかない「戦争と軍隊」について、前世紀の歩みを参照しながら多角的に取り組んでみたい、というのが、いまひとつの積極的な理由である。

ともかくにも、外交史、経済史、生活史研究に携わる日本近代史研究者を中核に、現代中国文学や日本近代文学の研究者、生化学者、科学史家たちが寄りより集まって、講義内容を検討するかたわら、共同研究のようなものをぼつぼつ開始した。これが「近代日本の戦争と軍隊」共同研究グループの発足のあらましである。森鷗外に「なかじきり」という文章がある。

共同研究は目にみえる成果を挙げなくてはならない。

それも、年度という枠組みのなかである。

取り組んでいる課題は大きく、複合的に絡み合っている。

研究は緒についたばかりである。

そうではあるけれども、これまでの取り組みを「なかじきり」風に

ひとまずかたちにしてみたのがこの小特集である。

人びとの生活に照準を合わせて、「戦争と軍隊」の一断面をみてみたのである。

読むひと、これを諒せよ。

(塩崎文雄)